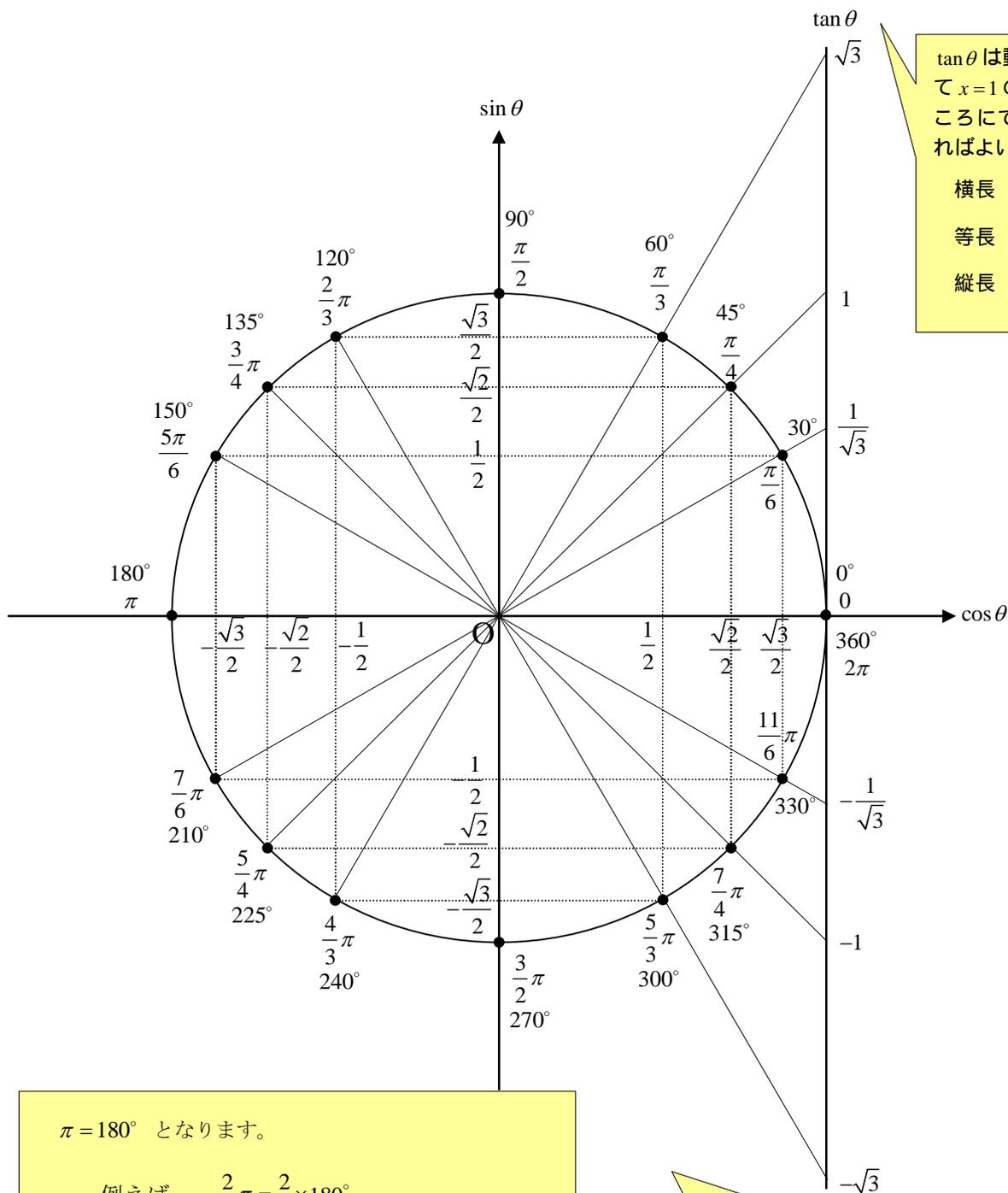




弧度法と三角関数の値の確認

単位円から直角三角形をかくことで $\sin \theta$, $\cos \theta$, $\tan \theta$ を求められるようになる



$\tan \theta$ は動径（斜辺）をのばして $x=1$ の直線とのぶつかるところにできる直角三角形をみればよい。

横長	$\pm \frac{1}{\sqrt{3}}$
等長	± 1
縦長	$\pm \sqrt{3}$

$\pi = 180^\circ$ となります。

例えば $\frac{2}{3}\pi = \frac{2}{3} \times 180^\circ$
 $= 2 \times 60^\circ$
 $= 120^\circ$

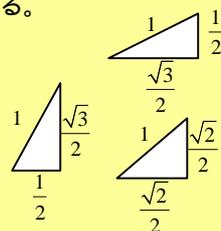
逆に $150^\circ = \frac{150}{180}\pi$
 $= \frac{5}{6}\pi$

$\sin \theta$, $\cos \theta$ は

三角関数が知りたい角度の動径がどこに出るかを考え、調べるべき動径を見極める。

動径を斜辺、 x 軸を底辺とした直角三角形がどのような形になるか考える。

辺の長さ（正負）を考えて、
 縦はサイン \sin
 横はコサイン \cos の値にする



全部暗記しなさい